

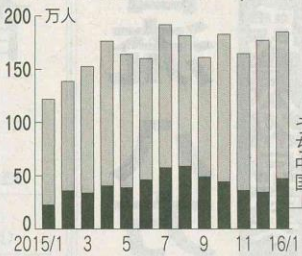
訪日客好調 1月52%増

中国、人民元安でも2.1倍

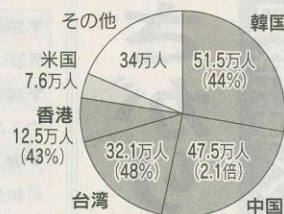
2016年の訪日観光ビジネスが好調なスタートを切った。日本政府観光局が16日発表した1月の訪日客数（推計値）は前年同月比52%増の185万1千人。単月で過去2番目の高水準だ。最大の押し上げ要因が中国からの訪日客。中国株・人民元安の逆風下にもかかわらず同2・1倍の47万5千人に増えた。日本の春節（旧正月、7～13日）商戦も盛り上がった。

1月の訪日客数は単月で過去2位

1月の訪日客数は単月で15年7月の過去最高（191万8千人）に次ぐ水準。ここ数年続いた



訪日客はアジアが中心
(2016年1月の内訳、カッコ内は前年同月比増減率)



（出所）日本政府観光局

国・地域別にみると、韓国が51万4900人で首位。1月初めの3連休で航空路線の拡充などが

不安材料もある。中国株や人民元の相場が不安定になり、原油安の進行で資源国経済への懸念が

効いた。2位の中国は、春節に関連した学校休暇の始まりが昨年より約1週間前倒しの1月20日ごろからとなり、家族旅行が増加した。3位は台湾で香港、米国が続いた。2月も勢いは続きそうだ。観光庁の田村明比古長官は16日の記者会見で「聞き取り調査では春節関連の訪日客は好調」という。1月の客数を単純に12カ月分の年間に換算すると約2200万人。「20年に訪日客2000万人」との政府目標の達成が十分に視野に入る。

強まっている。アジア地域の景気減速につながるなどして訪日客数が伸び

勢いは影を潜めつつある

との見方もある。田村長官は「1人で炊飯器を何個も買うのではなく、消耗品や医薬品の購入、体験型旅行を楽しむ人が増えつつある」と指摘する。